

# 平成 29 年度事業計画

自 平成 29 年 4 月 1 日  
至 平成 30 年 3 月 31 日

一般社団法人日本透析医学会

## 目 次

1. 総務委員会	(1)
2. 財務委員会	(4)
3. 編集委員会	(4)
4. 学術委員会	(5)
5. 統計調査委員会	(6)
6. 専門医制度委員会	(7)
7. 国際学術交流委員会	(9)
8. 評議員選出委員会	(10)
9. 保険委員会	(11)
10. 倫理委員会	(11)
11. 腎不全総合対策委員会	(11)
12. 危機管理委員会	(12)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(13)
14. 男女共同参画推進委員会	(14)

## 1. 総務委員会

### 1) 年次学術集会

第 62 回日本透析医学会学術集会・総会は、埼玉医科大学総合診療内科 教授 中元秀友会長が主宰し、平成 29 年 6 月 16 日（金）、17 日（土）、18 日（日）の 3 日間、パシフィコ横浜を会場として開催する。

今回のテーマは「変革期にきた透析医療—明るい未来を築くために—」を掲げて開催する。

#### <会長講演>

「変革期にきた透析医療—明るい未来を築くために—」

#### <特別講演>

「腎臓病克服への挑戦～日本腎臓学会の取り組み～」, 「高齢者の人工透析と AD」, 「『より良い組織作りがより良い人材を育てる』～箱根駅伝を終えて 3 連覇への追跡～」, 「日本の財政問題と医療の行方」, 「腎不全看護の「知」「技」「心」を育む」, 「AMED のミッション～研究開発の隘路解消に向けて～」, 「新専門医制度とサブスペシャリティ」, 「臨床工学技士誕生 30 周年を記念して、透析医療における臨床工学技士の有るべき姿、過去から現在、そして未来へ」, 「2025 年及びそれ以降の日本の医療と透析診療」, 「平成 30 年医療・介護同時改定 toward & beyond」, 「下肢末梢動脈疾患指導管理加算実現後の重症化予防策の推進について」, 「iPS 細胞を用いた再生医療の現状と展望」

#### <海外招請講演>

「腹膜硬化症発症のメカニズム～Danger Signal 仮説～」, 「How to spread renal replacement therapy in the developing world」, 「Role of Patient Centered Care in Dialysis Modality Selection」

#### <教育講演>

「透析医療と医療安全」, 「今後の医療経済と透析治療」, 「生きる権利と死ぬ権利」, 「災害と透析医療～熊本地震を経験して～」, 「透析医療とストレス～良好な関係構築にむけて～」, 「先行的腎移植」, 「これからの腎不全看護と看護教育」, 「透析患者におけるインターベンション治療」, 「地域包括ケアシステムと透析医療～アシスト PD や血液透析患者への応用～」, 「透析患者の終末期支援」, 「透析患者の睡眠障害」, 「材料工学における新たな生体適合性の概念」, 「医療倫理」, 「Calciophylaxis の病態、診断と治療」

#### <教育講演 ベーシック>

「腹膜透析 up to date」, 「透析患者に対する食事指導」, 「腎不全患者の輸液療法のポイント」, 「腎不全・透析患者の血管障害と代謝異常」, 「透析医療における CQI 活動」, 「ナノテクノロジーを用いたマイクロダイアライザ」, 「透析患者における薬物使用の注意点」, 「透析患者の認知症」, 「オンライン HDF」, 「透析療法と貧血」, 「透析の質と残腎機能評価」, 「透析患者の肝炎治療」, 「腎移植の現状と将来の展望」, 「透析液清浄化」, 「透析液検査」, 「血液透析における抗凝固法」, 「VA の歴史から学ぶ」, 「末梢動脈病変の治療アプローチ」, 「糖尿病管理とフットケア」, 「日本と海外の透析状況」, 「急性血液浄化技術」, 「ナラティブの手法を用いた腎不全看護」, 「医療統計 ABC」, 「ファブリー病 Up To Date」, 「ペットの腎不全治療」, 「透析患者の糖尿病管理」, 「透析患者と膠原病治療」, 「ADPKD 治療の最前線」, 「医療安全 ABC」, 「透析患者の高血圧治療 UP TO DATE」

#### <シンポジウム>

「AKI・急性血液浄化」, 「オンライン HDF の可能性を探る」, 「ダイアライザの機能分類は適正か?」, 「腎移植の現状と展望」, 「医療経済の面から透析医療の未来を考える」, 「新 CAPD ガイドラインを考える思案」, 「災害時における透析医療」, 「日本透析医学会・日本骨形態計測学会合同企画：パネルディスカッション：腎透析患者のカルシウム代謝を骨組織から考える」, 「透析患者の血圧管理」, 「腎性貧血ガイドラインを再考する：真の標準治療をめざして」, 「ターミナルケア 透析継続中止における各透析施設の取り組み」, 「高齢透析患者の幸せな生活を求めて」, 「小児透析医療の現状と未来」, 「透析医療における多職種医療連携 IPW」, 「PDOPPS シンポジウム」, 「透析導入期と療法選択」, 「透析における診療報酬を考える」,

「再生医療最前線」, 「在宅透析最前線」, 「透析患者の癌治療最前線」

<ワークショップ>

「CKD 患者のリハビリテーション」, 「CKD 患者における鉄代謝を再考する」, 「透析患者の感染症」, 「トータルリーナルケアにおける腹膜透析のあり方を再考する」, 「各領域におけるアフレス技術の展望」, 「糖尿病合併腎不全患者の生活管理」, 「透析患者のサルコペニア・フレイル」, 「二次性副甲状腺機能亢進症治療の新たな知見」, 「透析患者の認知症を巡る課題」, 「透析患者の末梢動脈疾患 (PAD) とフットケアの意義～早期発見と診療連携の重要性～」, 「透析技術におけるプロフェッショナルの条件」, 「I-HDF の可能性を探る」, 「透析患者の心血管合併症」, 「透析患者の栄養評価」, 「VA の作成と管理」, 「透析患者の呼吸器合併症～感染症を中心に～」, 「腎不全治療と地域医療連携」, 「眼に見えないを可視化するモニタリング技術」, 「腹膜透析推進のための地域連携」, 「医療の常識は世間の非常識?」, 「透析アクセス 合併症を防ぐには HD PD」, 「透析患者の消化器病変～内視鏡治療で成績は向上したか?～」, 「伴侶動物腎不全の透析導入と離脱のタイミング」, 「透析における臨床研究のあり方」, 「透析液組成を再考する」

<学会・委員会企画>

学術委員会・統計調査委員会合同企画：透析疫学における年齢と性差の意味 Epidemiological significance of gender and aging on chronic dialysis, 危機管理委員会企画 1 (医療安全)：医療安全への各方面からの取り組み, 学術委員会・統計調査委員会合同企画：Future challenges in renal registry, 統計調査委員会企画：コメディカルのための臨床研究入門, 専門医制度委員会：専門医制度の現状と展開, 男女共同参画推進委員会企画：TSUBASA PROJECT, 統計調査委員会企画：JSOT データをとことん利用する, 学術委員会 血液浄化の機能・効率に関する小委員会：在宅血液透析の施行条件と機能効率, 学術委員会 血液浄化の機能・効率に関する小委員会：パネルディスカッション「透析液濃度の適正管理に関する諸問題」, 学術委員会 血液浄化に関する新技術検討小委員会：血液浄化の変革期に求められる新技術, 男女共同参画推進委員会企画：透析に関わる多職種の男女共同参画の現況と問題点, 保険委員会企画：透析療法における医療と介護の連携, 学術委員会 血液浄化の機能・効率に関する小委員会：特別な機能をもつ S 型血液透析器の特徴と評価法, 危機管理委員会企画 2 (災害対策)：直下型地震, 学術委員会企画：Dialysis Therapy, 2016 Year in Review

<国際学術交流委員会プログラム>

The Committee of International Communication for Academic Research (CICAR) Symposium 1 「CKD-MBD in Asian Countries and Regions」, Free Communication 1, Free Communication 2, Symposium 2 「The Dialysis History and Status in 2017 of Asian Developing Countries : How is your association for dialysis therapy?」, Invited Lecture 1 「Treating diabetic nephropathy patients」

<企業共催シンポジウム>

「CKD-MBD 最近の話題」, 「透析医療の次世代概念」, 「透析導入期の貧血管理と心合併症」, 「PTH とその役割～最新の知見～」, 「Focus on phosphorus management～リン管理を科学する～」, 「DOPPS」, 「CKD-MBD における血管石灰化治療戦略を考える」

<その他>

6月16日(午前) 医療安全講習会

6月16日(午後) 医療倫理講習会

6月18日(午前) 日本透析医学会認定透析液水質確保に関する研修

\*詳しくは総会ホームページをご確認ください。

2) 通常総会・臨時総会

(1) 第62回通常総会開催：平成29年6月15日(木) 16:00～

(2) 学会賞・奨励賞授与式および講演会開催：平成29年6月17日(土)

### 3) 役員会

- (1) 常任理事会・理事会開催：平成 29 年 5 月 19 日・6 月 15 日・12 月 1 日・平成 30 年 3 月 30 日 計 4 回
- (2) 監事による監査会開催：平成 29 年 5 月 16 日（火）

### 4) 透析施設会員名簿の発行

会員名簿は例年どおり発行されるが、個人情報保護の観点から、電話番号や責任者氏名などの公表を希望しない施設については、引き続きその情報を掲載しない方針である。

また、会員専用ホームページに検索マップを開設し、施設・賛助会員の検索ができるようにしたが、さらなる充実を図るとともに個人情報保護の観点から、施設の公表を希望しない場合には情報を掲載しない方針である。

### 5) 小委員会

#### (1) 情報管理小委員会

① 学会ホームページの円滑な運営、内容の充実を図る。

a 各種委員会、小委員会、ワーキンググループ活動を含む学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行う。

b 会員専用ページ、English ページを含むホームページのリニューアルをめざす。

② 透析装置の通信共通プロトコルの推進

日本医療機器テクノロジー協会の協力を仰ぎながら進めてきた共通プロトコルバージョン 4 の委員会報告を発刊する。

#### (2) 腎不全看護師・栄養管理士育成ならびに腎臓病薬物療法認定薬剤師・専門薬剤師認定・育成に関わる小委員会

① 腎不全看護師育成に関する助言と問題点への対策を行う。

② 腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師認定制度に対する助言を行う。

③ 栄養管理士育成事業として、日本栄養士会が実施する管理栄養士専門分野別人材育成事業（CKD 分野）における助言を行う。

#### (3) 感染調査小委員会

本小委員会は院内感染などの集団発症が発生した時には、関係者の協力を得て機動的に対応するとともに、感染症にかかわる諸問題が発生した場合に迅速に対応する。また、今後発生の頻度が高いと思われる感染症の事例に機動的に対応する。日本の透析施設の『HIV 患者受け入れに関するアンケート調査』をまとめ、HIV 拠点病院、HIV 患者受け入れ可能透析施設一覧として提示することを考慮する。

#### (4) 統計調査のあり方小委員会

① 統計調査の倫理委員会審査結果の確認を行う。

② 統計調査結果の解析、論文化の計画の明確化、会員施設へのインセンティブを検討する。

③ 統計調査委員会と意見交換を行い、統計調査の IT 化の方向性を検討する。

#### (5) 統計調査業者選定小委員会

平成 29 年 3 月をもって新たな統計調査業務の委託業者が選定されたので休会とする。

#### (6) 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム小委員会

発展途上国の若手医師・コメディカルの日本における研修をサポートするために、過去 2 年間のパイロット的研修施行で出てきた問題点を精査し、本年は研修受け入れシステム・研修者選択システム・研修テキストを完成する。また、完成したシステムに従い研修生を受け入れ、学会として継続的支援が可能な体制を模索する。

#### (7) 本学会のあり方小委員会

日本専門医機構との意見交換を行いながら、一般人にも分かりやすい本学会の立ち位置・特徴などについて検討していく。

#### (8) e-ラーニング検討小委員会

- ① 第62回日本透析医学会学術集会・総会の教育講演，教育講演ベーシックを収録し，8月以降12月までの間で会員専用ホームページにアップし専門医は単位取得ができるように，専門医制度委員会と意見交換を図る．また，専門医以外の者もスキルアップのため視聴できるようにする．
- ② 運用については，ホームページで開始時期を周知する．アクセス対象者は，「正会員」，「専攻医を目指す正会員」，「施設会員の施設に所属する医療従事者」とする．
- ③ e-ラーニングのコンテンツとして，「医療安全」，「倫理」，「感染」，「災害」のテーマは必須事項であることを認識し，演題中に必ず含むようにする．
- ④ 専門医が，1つのコンテンツを視聴し，設問に正答した場合に，e-ラーニング視聴の単位を何単位にするか，などの詳細については専門医認定小委員会，専門医制度委員会での議論を依頼する．

#### 6) 学会との連絡，協力関係

1) 日本医学会，2) 日本医学会連合，3) 日本医師会，4) 日本慢性腎臓病（CKD）対策協議会，5) 透析療法合同委員会，6) 内科系学会社会保険連合，7) 臓器移植関連学会協議会，8) 末期腎不全治療説明用小冊子作成，9) 糖尿病性腎症合同委員会，10) 登録腎生検予後調査検討委員会，11) 先行的献腎移植申請審査会，12) 透析療法に関するグランドデザイン，13) 日本透析医会との連絡協議会，14) 日本医療器材工業会と日本透析医学会の連絡協議会等と協力，連携を密にしていく．

## 2. 財務委員会

平成20年12月に新公益法人制度が施行され，これに伴い本学会も平成24年9月3日付けをもって，一般社団法人に移行した．一般社団法人への移行とともに本学会の財務管理を平成20年度改正の新・新公益法人会計基準に則り，新・新基準による経理を実施し，貸借対照表および正味財産増減計算書等を軸とした本学会活動の正確な各事業別損益の把握をして，より適切な財務管理を目指す．

また，移行法人としての期間は，公益目的財産額の把握および公益目的支出計画の作成等法人の基本情報，公益目的支出計画実施報告書の作成を適正に行う．以上を踏まえて，税務を含めた適正な会計処理を継続的に遂行し，学会として各常置委員会，小委員会の諸事業を積極的に推進し，多大な成果が得られるよう財務を通じて協力助成するとともに財務業務の全般的な見直しを継続して検討する．

## 3. 編集委員会

#### 1) 公式和文誌について

- (1) 日本透析医学会雑誌を毎月1冊，年間12冊を発行する．
- (2) Year in Review 2016 原稿の投稿を受け，2017年和文誌に優先的に掲載を検討する．
- (3) 統計調査委員会の年末調査報告「わが国の慢性透析療法の現況」を例年通り和文誌に掲載する．
- (4) 学術集会・総会特別号（抄録集）を Supplement として発行する．
- (5) 投稿促進策を実践する．その一環として，再投稿を促す連絡システムを構築する．
- (6) 年間3回を目安として特集号を組む．

#### 2) 公式欧文誌 Therapeutic Apheresis and Dialysis (TAD) について

国際アフェレシス学会・日本アフェレシス学会と共同で引き続き年6回刊行する．

#### 3) もう一つの公式欧文雑誌である Renal Replacement Therapy (RRT) について

- (1) 引き続き Web Journal として Open Journal の形式で，BioMed Central に委託しつつ引き続き発行する．
- (2) Google Scholar での Index 化（完了）に続き，本年度中に PubMed Central での Index 化を達成する．
- (3) 他の検索システム（DOAJ, Embase, MEDLINE, Science Citation Index, Scopus etc.）などへの Index 化

も順次手続きを行い進める。

- (4) 国内の関連領域他学会からの希望があれば、RRT 誌の Official Journal 化を検討する。
- (5) 2017 年度は学会からの 8 編の Position Statement 論文掲載を予定する。
- (6) 2017 年度は投稿数 200 編を目標とする。
- (7) 2017 年度は掲載論文数 100 編を目標とする。
- (8) Associate Editor 並びに Editorial Board Member を増員する。なお新規には本邦以外在住者とする。
- (9) 将来の Impact Factor 獲得に必須のトムソン・ロイター社のデータベースである Web of Science に登録を目指すために、引用数の増加策を講じる。

## 4. 学術委員会

### 1) 学会賞・奨励賞の選出

選考規定に則って学会賞・奨励賞の選考を行い、理事会の承認を得る。

### 2) 学術委員会活動（ガイドライン、提言等の作成、広報活動）等に関する協議

学術委員会の会合を定期的に開催し、学術委員会関連小委員会と共同して、実施すべき学術活動に関して協議・遂行する。

平成 28 年度に 2009 年度版「腹膜透析ガイドライン」の改訂ワーキンググループを設置して、改訂作業を開始したが、その活動を進める。

### 3) 学術専門部小委員会（土田健司委員長）

(1) ガイドライン手順書ワーキンググループと協力し、新たな学術システムの構築の一つである Year in Review 2016 を第 62 回日本透析医学会学術集会・総会（平成 29 年 6 月）において委員会企画として発表する。

(2) 2017 年中に Year in Review 2016 を学会誌に投稿し掲載依頼する。

### 4) 新たな公募研究システムの立案

新たな公募研究システムを、学術委員会主体で行うこととし、統計調査委員会と協力して新しい公募研究システムを立ち上げたが、この活動を進める。

### 5) 栄養問題検討ワーキンググループ（菅野義彦委員長）

統計調査委員会のデータを用いて、わが国の透析患者における栄養指標の評価を行う。これをあわせて栄養状態の評価方法に関する検討を本年の総会で行い、これを基にテキストを作成する。このテキスト作成は学術委員会の活動と連携する。

### 6) 腹膜透析ガイドライン改訂ワーキンググループ（伊藤恭彦グループ長）

「日本透析医学会診療ガイドライン作成指針」に則り改訂を進める。

Content 1 に対して記述作業をワーキングメンバーが主体となり進める。

Content 2 では、Systematic Review (SR) メンバー組織にて、9 個の Clinical Question (CQ) に対して SR 作業を進める。CQ に対する推奨度決定のためのパネル会議メンバーの選定を進める。

### 7) 「頻回・長時間血液透析における機能・効率と安全性の検討ワーキンググループ」を日本透析医会と合同で発足させ、同内容について検討する。

### 8) 委員会活動

#### (1) 学術専門部小委員会（土田健司委員長）

ガイドライン手順書ワーキンググループと協力し、新たな学術システムの構築の一つである Year in Review 2016 を第 62 回日本透析医学会学術集会・総会（平成 29 年 6 月）において委員会企画として発表する。

(2) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会・ISO 対策 WG 合同委員会（峰島三千男委員長）

- ①「2016年版 透析液水質基準」の英文化を進める。
  - ②「特別な機能をもつ血液透析器の特徴と評価法」について委員会報告として透析会誌より発行する。
  - ③透析液濃度測定の標準化とその管理に関する指針について、引き続き日本臨床工学技士会、日本血液浄化技術学会と合同で策定に向け、検討を進める。
  - ④「透析器ならびに血液回路一体型」の有用性について検討する。
- (3) 血液浄化に関する新技術検討小委員会（山下明泰委員長）
- ①第61回日本透析医学会学術集会・総会に引き続き、第62回日本透析医学会学術集会・総会（平成29年6月）においても委員会で議論した成果を、委員会企画で発表する。
  - ②委員の一部交代を受けて、小委員会内の役割分担を再確認するとともに、前年度に引き続き、ものづくりに向けて検討が必要な事象（特許、PMDAの判断など）の洗い出しを行う。
  - ③これまで同様、委員会は年に3回開催する。各委員の研究進捗報告のみならず、問題点解決に向けて互いの協力体制の強化を図る。
- (4) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会（峰島三千男委員長）
- ①体験参加型セッションの開催を行う。
  - ②学会ガイドライン・指針・委員会報告の内容を基にしたわかりやすいセミナーを開催する。  
これらの企画は学術総会時に開催するのが効果的と考え、次期総会大会長へ働きかける。採択の場合、委員会として全面的に協力していく予定である。
- (5) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会（友 雅司委員長）
- 例年通りの方法で適切な応募研究課題の中から選考する。

## 5. 統計調査委員会

- 1) 2016年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況の調査・報告
- (1)速報値報告：第62回日本透析医学会学術集会・総会（6月）でポスターとアプリで報告する。
  - (2)現況報告図説・CD-ROMの作成：確定データで作成し2017年末までに発行する。
  - (3)2018年1月の本学会誌に「わが国の慢性透析療法の現況（2016年12月31日現在）」を掲載する。
  - (4)わが国の慢性透析療法の現況（2016年12月31日現在）、図説現況、CD-ROMデータを学会ホームページに公開する。
  - (5)「Annual Dialysis Data Report 2015, JSOT Renal Data Registry (JRDR)」を作成し、本学会誌英語版（Renal Replacement Therapy）に掲載する。
  - (6)「Annual Dialysis Data Report 2016, JSOT Renal Data Registry (JRDR)」の作成を和文報告書と同時期に作成し、可及的早急に本学会誌英語版（Renal Replacement Therapy）に掲載する。
  - (7)現況報告のPPTファイルを英文化してホームページに掲載する。
  - (8)現況図説、和文報告書、英文報告書を効率的に作成するために、それぞれの体裁を共通フォーマットを使用したものに改変する。
  - (9)会員対象帳票出力プログラム設置に伴い、CD-ROM出力帳票内容の見直しを行う。
- 2) 2017年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況について調査する。
- (1)新規統計調査業務委託先と2017年以降調査の方針、具体的な手順を明文化する。
  - (2)調査項目の見直し、透析導入原疾患、透析患者死因分類の見直しなど、調査全般の基本的な事項について見直しを行う。
  - (3)腹膜透析の調査項目、適切な調査方法について再考する。
  - (4)今年度の調査計画をUMINに公開する。
- 3) 第62回日本透析医学会学術集会・総会において以下のセッションを開催する。

- (1) 統計調査委員会セッション「Future challenges in renal registry」
- (2) 学術委員会・統計調査委員会合同企画「透析疫学における年齢と性差の意味」
- 4) 過去蓄積データの匿名化の推進
  - (1) 2015 年末調査から行われた匿名化データの突合結果を評価し、問題点を集約する。
  - (2) 上記を勘案し、2018 年 3 月 31 日までに手持ちデータの匿名化を完了する。
- 5) 解析用データベース作成のための名寄せプログラムの論文化
  - (1) 2001～2014 年の過去データの突合プログラムについて、再現性が確認されたため、方法論を論文化する。
- 6) 学術研究用データファイル切り出しシステムの構築（継続事業）
  - (1) 上記で得られた 2001～2014 年の突合済み解析用データベースから、研究に必要なパラメーターを指定して研究解析用データファイルを切り出すソフトウェア開発を引き続き行う。
  - (2) 上記により、今後必要な解析用データファイルの作成は事務局で行う。
- 7) ウェブ帳票出力プログラムの開発（継続事業）
  - (1) データベースから会員自身がウェブを通じてアクセスして、自らが望む情報を出力できるプログラム開発を引き続き継続する。
  - (2) 該当プログラムを用いた会員の臨床研究に対する、倫理規約、オーサーシップを明文化する。
- 8) 統計調査データにおける研究活動の推進・論文化
  - (1) わが国の透析医療のノウハウを世界に発信するために、学術委員会など各種委員会と協力して、現在までに蓄積されたデータを解析し積極的に論文化を行う。
- 9) 新たな公募研究システム設置への協力
  - (1) 学術委員会が設立する新たな公募研究システムへ協力する。
- 10) 国内・国際協力の推進
  - (1) 日本透析医会を始めとした他学会、さらには United State Renal Data System, Australia New Zealand Data System, European Real Association/European Dialysis Transplantation Association 等の海外レジストリと連携し、データ供与や解析を行う。
  - (2) 米国腎臓学会の際に、統計調査委員会とUSRDS メンバとのボードミーティングを行う。
- 11) 英語版ホームページの充実
  - (1) 日本透析医学会の統計調査の海外への発信力を高めるために、統計調査のホームページを充実させる。
  - (2) 英語版ホームページには英語版現況報告の PDF、英語版図説 PPT、統計調査の歴史やシステム、これまでに発表された論文一覧などを提示する。
- 12) 会員インセンティブの充実
  - (1) 統計調査への理解を深め、会員のニーズを知るため地域協力員メーリングリストで引き続き積極的な情報提供に努める。
  - (2) 帳票出力システムの利用を推進する。

#### 統計解析小委員会

- (1) 各小委員は所属委員会で必要とされるテーマに関して、既存データベースを用いた解析を行い学会報告、論文化を行う。
- (2) 新たな研究テーマの提案に対して採否の意見をまとめ、委員会に審議を依頼する。
- (3) 既存研究テーマの進捗状況を小委員会で定期的に報告し、相互にブラッシュアップする。
- (4) 解析技術向上のため、外部委員による小委員を対象としたセミナーを開催する。

## 6. 専門医制度委員会

日本透析医学会専門医制度委員会は、血液浄化療法に関連する医学と医療の進歩に即応した優秀な医師の養成

をはかるとともに、透析医学の向上発展をうながし、国民の福祉に貢献することを目的として活動し、よりよい専門医制度の実施を目指すための事業計画を策定した。透析専門医として日本専門医機構から認定を受けることが最重要であり、専門医制度整備指針および専門医に関する情報システム開発事業報告書に準じて、さらなる専門医制度の改訂を検討し、ヒアリングに備える。

1) 専門医制度委員会

各小委員会で整備した内容についての検討

(1) 研修プログラム小委員会

専門研修カリキュラムを含む専門研修プログラム第2版の作製（日本専門医機構専門医制度整備指針に準じた改訂）と製本。

日本専門医機構専門医制度整備指針に準じて、専攻医を主として育成する専門研修基幹施設と、専門研修基幹施設で研修できない部分を補う専門研修連携施設による施設群形成を検討するために、現行の認定施設に専門研修基幹施設に移行する確認を行い、移行を希望する施設に、指導医の条件などを修正した実態調査を再度行う。

各都道府県において、基幹施設としての認定の可否を検討し、専門研修基幹施設への移行を希望する施設群一覧表を修正する。

2016年度および2017年度の専門医試験合格者の研修状況を検討し、専門研修施設群における専門医育成数の実態調査を行い、作成した施設群一覧表にない専門研修基幹施設の追加を行い、認定の可否を検討する。

(2) カリキュラム小委員会

専門研修カリキュラムの改訂（専門研修プログラム第2版と合冊）

専門研修指導マニュアル第3版の作製

専門研修トレーニング問題解説集第3版の作製

セルフトレーニング問題の作成

e-ラーニング問題のブラッシュアップ

(3) 専門医認定小委員会

専門医と指導医の新規認定と更新

適正な専門医数と年間育成専攻医数の検討

症例要約モデル集第2版（PDF）の作製

(4) 専門医試験小委員会

専門医試験の実施

専門医試験プール問題の中で、優良でない試験問題（優良の定義：正答率50～70%かつ識別指数0.2～0.4以上）の一部をブラッシュアップする。また、新規に問題を作成し、すべての分野で適正数の問題をプールするとともに、写真や図表問題も多くし、700題のプールを目指す。

(5) 施設認定小委員会

認定施設と教育関連施設の新規認定と更新

現行および施行時期理事会一任の専門医制度規則・規則施行細則については、必要に応じて見直しを審議する。

2) 「倫理の問題」については毎年啓発しており、専門医認定の口頭試験で受験者の倫理観を確認する予定である。

3) 透析専門医としての「質」を継続維持していくために、本学会専門医の更新を目指す医師を対象に「セルフトレーニング問題」を導入しており、カリキュラム小委員会編集会議でブラッシュアップを行い、その問題を学会誌に掲載し、専門医・指導医認定小委員会の厳密な審査で所定の正答率をクリアした専門医には一定の研修単位（5単位）を認定している。なお、専門医更新必須条件であるセルフトレーニング問題

正答を認定期間5年の内1回以上正答として実施している。なお、問題は学会誌には掲載せず、応募者に問題・解答用紙（マークシート）を送付し、受付期間は5月1日～5月31日迄で実施し問題・正解・解説は9号に掲載する予定である。

- 4) 血液浄化法に関する生涯教育の一環として、全国を細則第2条の11地区に分け、年1回各地区の各地方学術集会にて生涯教育プログラムとして実施している講演会に対して、専門医認定小委員会地区委員および施設認定小委員会地区委員が1つの地方学術集会を推薦し、専門医等認定事業経費から助成金を支給している。
- 5) 専門医認定審査は、今までと同様に書類審査、客観式筆記試験（問題形式はAタイプ、X2タイプ）、口頭試問試験の3者の総合的な判断で行い、可否を決定する予定である。
- 6) 専門医認定（専門医認定試験）と更新、指導医認定と更新、認定施設・教育関連施設認定と更新の公示・受付等については下記の通りである。

- (1) 第28回専門医認定

申請受付の会告 2017年3月～5月  
申請書類受付 2017年6月1日～6月30日  
試験日 2017年10月15日（第3日曜日）  
試験会場 都市センターホテル（東京都）

- (2) 認定期間 2018年3月31日までの専門医認定更新

更新申請受付の会告 2017年8月～10月  
更新申請書類受付 2017年11月1日～11月30日

- (3) 第28回指導医認定

申請受付の会告 2017年10月～12月  
申請書類受付 2018年1月初め～2018年1月31日

- (4) 認定期間 2018年3月31日までの指導医認定更新

更新申請受付の会告 2017年9月～11月  
更新申請書類受付 2017年12月1日～12月28日

- (5) 第27回認定施設・教育関連施設認定

申請受付の会告 2017年4月～6月  
申請書類受付 2017年7月15日～8月15日

- (6) 認定期間 2018年3月31日までの認定施設・教育関連施設認定更新

更新申請受付の会告 2017年4月～6月  
更新申請書類受付 2017年7月15日～8月15日

## 7. 国際学術交流委員会

第62回日本透析医学会学術集会・総会において、国際学術交流委員会として下記の企画を行う。

### I. 招請講演

- (1) Prof. Christoph Wanner (Germany) “Long-term effects of atorvastatin in patients with type 2 diabetes mellitus on hemodialysis” chaired by Nobuhito Hirawa
- (2) Prof. Jer-Ming Chang (Taiwan) “Treating diabetic nephropathy patients” chaired by Takashi Wada

### II. シンポジウム

- (1) シンポジウム 1 CKD-MBD in Asian Countries and Regions  
Chairs : Masafumi Fukagawa, Yoshitaka Isaka  
① Dr. Masatomo Taniguchi (Japan)

- ② Prof. Zhihong Liu (China)
- ③ Prof. Young Joo Kwon (Korea)
- ④ Dr. Bak Leong Goh (Malaysia)
- ⑤ Dr. Angela Yee Moon Wang (Hong Kong)
- ⑥ Prof. Kuo-Cheng Lu (Taiwan)

(2) シンポジウム2 The Dialysis History and Status in 2017 of Asian Developing Countries : How is your association for dialysis therapy?

Chairs : Toru Hyodo, Munekazu Ryuzaki

- ① Prof. HY Chanseila (Cambodia)
- ② Prof. Vivekanand Jha (India)
- ③ Prof. Khin Thida Thwin (Myanmar)
- ④ Dr. Coralie Therese Dimacali (Philippine)
- ⑤ Prof. Kriang Tungsanga (Thailand)
- ⑥ Prof. Pham Van Bui (Viet Nam)
- ⑦ Prof. Kenichi Kokubo (Japan)
- ⑧ Prof. Akihiro Yamashita (Japan)

III. シンポジウム (統計調査委員会との共同企画) Future challenges in renal registry

Chairs : Ikuto Masakane, Stephen McDonald

- ① Satoshi Ogata (JSDT, Hiroshima)
- ② Rajiv Saran (USRDS)
- ③ Stephen McDonald (ANZDATA)

IV. 一般講演 Free Communications

例年通り, 公募を行う。

V. Farewell Reception

海外からの参加者, 演者, 国際交流委員, 日本透析医学会評議員などの学術交流の場として, 大会期間中に Farewell party を開催する。Welcome Party については例年通り, サポートを行う。

VI. Travel Grant 等

招請講演演者に対しては, 欧米演者は講演料 2000 ドル, 交通費 5000 ドル, アジア演者は 1000 ドル, 交通費 35000 ドルを支給, シンポジストには欧米演者には講演料 1000 ドル, 交通費 3000 ドル, アジア演者には講演料 10 万円, 交通費 15 万円を支給することとした。一般演題に関しては, World Bank Criteria による Lower-middle income countries, Low-income countries に対して, サポートを厚くすることとした。Lower-middle income countries, Low-income countries については年齢制限はなしとし, travel grant 10 万円 (ただし VISA が必要な国からの場合は旅行保険込み), Upper-middle-income countries, High-income countries については 40 歳未満を対象として 5 万円支給とした。

VII. 国際交流派遣事業

海外関連学会への交流委員派遣は今年度も見送る予定である。

VIII. その他

国内外で開催される, 関連国際学会へ各委員が独自に参加する。

## 8. 評議員選出委員会

一般社団法人日本透析医学会 第 4 回評議員選挙

日本透析医学会定款第 20 条, 21 条, 22 条および日本透析医学会定款施行細則第 13 条, 14 条, 15 条並びに日

本透析医学会評議員選出規則に則り第4回評議員の選出を行う。

- 1) 評議員選出規則第3条に基づき、選挙は全国統一地区と7の地方区に分けて行う。
- 2) 同規則第6条に基づき、定数220名の評議員を選出しその内80名は全国区、140名は地方区とする。
- 3) 同規則第7条に基づき、平成29年会誌10号に選挙の公示をし、10月下旬に電子公告を行う。
- 4) 同規則第9条第1項に基づき、平成29年10月1日現在の有権者名簿を、会誌10号に公示し、10月下旬に電子公告を行う。
- 5) 同条第2項に基づき、11月20日までに有権者名簿について、異議の申し立てを受ける。
- 6) 同規則第11条第1項に基づき、11月20日までに立候補の届け出を受ける。
- 7) 同条第4項に基づき、12月1日までに立候補の辞退を受ける。
- 8) 同規則第12条に基づき、候補者の氏名を平成29年会誌12号に公示し、12月下旬に電子公告を行う。
- 9) 同規則第13条に基づき、平成30年2月15日に投票を締め切る。
- 10) 同規則第16条に基づき、投票終了後ただちに開票立会人のもとに、開票を行う。
- 11) 同規則第21条に基づき、当選者が決定した場合、当選者に通知し、会誌に公示し、電子公告を行う。
- 12) 同規則第22条に基づき、選挙結果発表日より14日以内に選挙効力に関し異議申し立てを受ける。

## 9. 保険委員会

平成30年度の保険改訂に向けて内科系社会保険連合会の血液浄化委員会、日本腎臓学会、日本小児腎臓学会、日本アフェレシス学会、日本急性血液浄化学会、日本腹膜透析医学会、日本透析医会と連携して提案項目の検討を行い、内保連を通じて厚生労働省に提案する。

透析液水質確保に関する研修を第62回日本透析医学会学術集会・総会および専門医制度委員会が認定している地方学術集会ならびに全国規模学術集会において実施する。

透析療法に関する医療費の費用対効果の検証を行う。

平成30年度の保険改訂、要望について

本会より人工腎臓、月当たりの回数制限の是正：高度の心不全症例に対して月当たり14回の人工腎臓技術料制限を月当たり16回への増加の提案を行う。

過去2年、週3回の維持透析では管理出来ない、NYHAⅢ度以上の心不全、1年間で心不全にての入院歴のある症例に対して月16回までの回数を認可申請したが、認可は得られなかった。対策として、さらに対象要件を限定するため心エコー所見を追加し再提案を行うこととした。この提案が認められることにより、血液透析における最大透析間隔リスクの低減が期待される。

## 10. 倫理委員会

- 1) 透析医学会として対応すべき倫理に関する課題に対して、適時委員会を開催し審議する。
- 2) 透析医学会として対応すべき、研究倫理に関する課題に対して、随時研究倫理に関する検討小委員会を開催し検討する。
- 3) 個人情報安全管理ならびにその適切な取扱をするため、個人情報管理者である倫理委員長が個人情報の利用等の管理に適時対処する。

## 11. 腎不全総合対策委員会

従来からの、CKD総合対策の一環として腎移植、腹膜透析の普及に努めるとともに、地域における問題点を検

討するために、モデル地域の専門医や透析へのアクセスについてアンケートを行い、問題点を解析する。

1) 慢性腎臓病 (CKD) 対策に関して、関係学会との協力を推進する。

- (1) 日本腎臓学会、厚生労働省が支援している進行性腎障害に関する調査研究班、本学会統計調査委員会と協力し、円滑なレジストレーション、および腎臓病 (腎生検) 記録カードによる有益なデータ解析が行えるように体制を強化する。特に、日本腎臓学会と日本透析医学会のレジストリーの連携を図る。
- (2) 小児についても、日本小児腎臓病学会を加えた上記機構で同様に進める。また、小児腎不全患者の現状と問題点、特に移行の問題、について把握する。
- (3) 厚生労働省が支援している CKD 重症予防研究についても協力する。
- (4) 患者が末期腎不全治療の選択が適正に行えるよう、日本腎臓学会、日本移植学会と合同で「末期腎不全治療選択」小冊子を改訂し、DVD を作成し、この配布と普及に努める。

2) 腎移植の普及に努める。

- (1) 腎移植への理解を深めるため、日本移植学会、日本臨床腎移植学会などと共同にて、日本透析医学会学術集会・総会、および関連学会・研究会などで臓器移植ネットワークの活動内容の紹介を含め、移植、特に献腎移植や生体腎移植の啓発活動を行う。
- (2) 日本移植学会、日本臨床腎移植学会、日本小児腎臓病学会と協力し、日本腎臓学会の「腎移植研修プログラム (教育セミナー、研修病院での研修)」へ会員の参加を積極的に呼びかける。
- (3) 医療側、患者側の治療法選択と施設選択に役立てるために、上記学会と協力し合い末期腎不全統計の詳細な積極的な公開を進める。この実務に当たる腎不全総合対策委員会ワーキンググループでは、末期腎不全統計、preemptive 腎移植、保存期腎不全治療、腎代替法についてのコンセンサスなど、実質的検討を行う。  
また、その成果を学会誌、学会 Web、商業誌、monograph などで公開し、腎不全治療の啓発に努める。
- (4) ドナー不足に対して、各種学会・研究会などにおいて、臓器提供カードの配布を推進し、臓器提供の増加をはかる。また、会員に、改定された「臓器の移植に関する法律」のガイドラインについて広報し、「旅行移植」が望ましいことでないこと、「病腎移植」はきちんとした倫理的手続きを取らない限り施行すべきでない等の問題についても積極的な啓発活動を行う。

3) 腹膜透析の普及に努める。

- (1) 日本透析医学会で作成された腹膜透析に関するガイドラインを基に教育セミナーなどを行うよう、透析医学会内で推進し、それらへの参加を会員に呼びかける。日本腎臓学会にも働きかけ、腎代替療法の一つとしての腹膜透析を患者に十分説明できるよう、腎臓専門医に対し啓発活動を行う。
- (2) PD の普及に向けて地域連携を推進するとともに、行政に対して積極的に働きかけ、ヘルパーが PD バッグ交換をできるようにするなど、高齢者などが PD 医療を容易に受けることができるような体制を築く。

4) 地域における腎不全医療アクセスの問題点の検討

CKD 患者数に比べ、透析導入の数が少ないなど、非専門医から腎臓専門医や透析医へのアクセスに問題がある可能性のある地域に注目し、その連携の問題点と解決策を明らかにするために、腎臓内科、透析のない施設に対して「地域における腎疾患治療の現状に関するアンケート」を行う。内容を検討し、まず岩手県において、アンケート調査の調整準備が完了した。その後、他の地域へ拡大する予定である。

## 12. 危機管理委員会

### 危機管理委員会

- 1) 透析医療における安全管理、災害と透析医療をテーマとした学術活動の提案、関連団体の学術活動への協力をを行う。

#### 災害対策小委員会（山川智之小委員長）

- 2) 第62回日本透析医学会学術集会・総会（2017年6月16～18日：パシフィコ横浜）において、災害に関する委員会企画を行う。テーマは直下型地震とし、以下の内容で行う。さらに、その内容を委員会報告としてまとめて透析会誌に掲載する。
  - (1) 木全直樹「直下型地震被害予想（仮題）」
  - (2) 久木山厚子「熊本地震の対応（仮題）」
  - (3) 奈倉勇爾「東京都城北地区の災害への取り組み（仮題）」
  - (4) 雨宮守正「埼玉県の災害への取り組み（仮題）」
  - (5) 土井研人, 森村尚登「直下型地震における AKI 対策（仮題）」
  - (6) 赤塚東司雄「直下型地震の対策（仮題）」
- 3) 大規模災害時等に学会として、患者、医療スタッフ向けのステートメントをホームページに掲載することができるようにコンテンツをあらかじめ作成しておく。内容は、日本循環器学会、日本心臓病学会、日本高血圧学会の3学会による「「避難所における循環器疾患の予防」に関する3学会共同声明」や宮崎真理子委員が熊本地震の際に提案したステートメントを参考に、災害対策小委員会としてまとめる。
- 4) 東日本大震災学術調査ワーキンググループの活動を継続し、統計調査委員会と協力の上震災の透析患者の病態、生命予後に与える影響について解析し2次報告書を作成する。
- 5) 首都直下型地震への対応における問題点について検討するワーキンググループを立ち上げ、対応策の原案を作成する。
- 6) 日本透析医学会の理事、危機管理委員会、統計調査委員会、地域協力員は引き続き日本透析医会の災害対策メーリングリストに参加し、災害時の緊急情報の共有ならびに支援体制の構築にむけて関連団体と協力する。

#### 医療安全対策小委員会（安藤亮一小委員長）

- 7) 第62回日本透析医学会学術集会・総会（2017年6月16～18日：パシフィコ横浜）において、医療安全に関する委員会企画を行う。テーマは医療安全への各方面からの取り組みとし、以下の内容で行う。さらに、その内容を委員会報告としてまとめて透析会誌に掲載する。
  - (1) 安藤亮一「オーバービュー～医療安全への各方面からの取り組み」
  - (2) 鶴田良成「愛知県透析医会でのレベル3以上の医療事故報告の取り組み」
  - (3) 遠藤ミネ子「抜針事故対策への取り組み」
  - (4) 小野信行「透析装置に関する事故対策」
  - (5) 中井歩, 山家敏彦「当院における医療安全への取り組み～指差し呼称の定着とその有効性に関する検討」
- 8) 医療事故調査報告制度に協力団体として、センター調査等を担当する。
- 9) 厚生労働省等から報告される、薬剤・医療器具などに関する緊急安全情報の中で、透析医療に関わるものについて、日本透析医学会ホームページを利用して会員に周知を図る。

### 13. 研究者の利益相反等検討委員会

「日本透析医学会における医学研究の利益相反（COI）に関する指針」に基づき、会員の利益相反状態に関する以下の事項について実施する。

- 1) 会員が総会等で発表する際の利益相反状態に関する情報開示
- 2) 会員が学会誌に投稿する際の利益相反状態に関する報告書の提出
- 3) 本学会の役員（理事長、理事、監事）、総会会長、委員会委員長、特定の委員会ならびにその作業部会委員の利益相反状態に関する自己申告書の提出
- 4) その他、会員に関連した利益相反状態や自己申告内容に関する管理を必要に応じて行う。

- 5) 理事長の諮問により利益相反状態の問題の有無・程度の検討, 審査請求に対する判断・マネジメント等を行う。

## 14. 男女共同参画推進委員会

### 男女共同参画推進委員会

日本臨床工学技士会, 日本腎臓病薬物療法学会, 日本腎不全看護学会, 日本病態栄養学会と共同し男女共同参画活動を進める。日本透析医学会ホームページの男女共同参画推進委員会の項の拡充を図る。多職種の男女共同参画に関する小委員会, 女性医師育成小委員会の活動内容を掲載する。透析分野における男女共同参画の現況, 展望についての寄稿, 編集を進める。

### 小委員会

#### 1) 多職種の男女共同参画に関する小委員会

第62回日本透析医学会学術集会・総会において, 委員会企画「透析施設における男女共同参画」を開催する。発表した内容は論文化し, 日本透析医学会ホームページに掲載するとともに, 日本透析医学会雑誌へ投稿する。引き続き, 日本臨床工学技士会, 日本腎臓病薬物療法学会, 日本腎不全看護学会, 日本病態栄養学会のそれぞれと共同した活動を進める。

#### 2) 女性医師育成小委員会

第62回日本透析医学会学術集会・総会において, 委員会企画「第1回 TSUBASA PROJECT」を開催する。発表した内容は論文化し, 日本透析医学会ホームページに掲載するとともに, 日本透析医学会雑誌あるいはRRTへ投稿する。

第2回 TSUBASA PROJECTを企画する。第1回同様に統計調査委員会や学術委員会の協力を仰ぎ, さらにブラッシュアップさせる。また, 発表や論文化を行う。